

ごあいさつ

新理事長 田中 仁

2016～2018年度の学会執行部は、関西部会を中心に西日本・東海両部会とともに運営することになりました。この関東部会と関西・西日本・東海部会が二期4年間を交互に運営するという新しい制度を定着させ、堅実な研究活動を推進するためには、各部会それぞれの持ち味を存分に活かしながら、相互の連携・協働を促すことがとりわけ重要であることは言うまでもありません。

毎春に開催する関西部会大会ではシンポジウムと部会報告を行なっています。先日開かれた関西部会の事務局会議でこのシンポジウムのテーマについてのブレインストーミングがありましたが、そこでは、習近平体制の5年間をふり返る、抗日戦争80周年、トランプ政権と中国、香港返還20年（周辺から見た中国）、文化・文芸の今日的状況などが出されました。このように歴史、経済、政治、社会、地理、環境、文学など現代中国に関わる様々な領域の研究者が膝を交えて議論することは、本学会が有する（誇りうる）独自性であると思います。また昨秋の慶應湘南での大会で実現した他学会との共同企画、あるいは環境問題などでの理系との対話についてもさらにふみこんだり組みが求められます。

昨年は文化大革命50年で、今年はロシア革命100年にあたります。どちらも20世紀中国政治を方向づけた大事件ですが、今日の中国は、次のステージに向けた大きな転換点にさしかかっているように思われます。同時に、今世紀に入ってから急速な経済発展によって現実感を増した中国のグローバル大国化は、東アジアにおけるヒト・モノ・カネ・情報のありようを大きく変えました。トランプ政権の帰趨や韓国政治の迷走あるいはヨーロッパ政治の動向など、私たちはいま予測困難な様々な不安定要因に取り囲まれています。こうした現況をふまえた総合的・多面的な論点の整理と課題設定あるいは討論の場の提供など、本学会が貢献しうる点は少なくありません。

昨年秋に明らかとなった大学生協の学会事務局撤退表明は、新たな委託先の検討とともに本会の財政基盤を揺るがし兼ねない深刻な問題であり、現在、執行部では論点の整理と捌きを行なっています。然るべき成案を得るべく検討を進め、具体的な方策を提案させていただきたいと考えています。

執行部を代表して、ご挨拶とともにみなさまのご理解とご支援をお願いいたします。